

隣保館だより



編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1
電話：72-1191 (FAX兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp

榎の実学習会 (小・中合同学習会)

1月5日、下榎集会所で、榎の実学習会の小学生と中学生の交流会が開かれました。交流会のテーマは「楽しく料理を作ろう」で、中学生(2年生)が中心となり、2班に分かれてお好み焼き、フルーツポンチ作りをしました。班の中で役割を決め、手際よくそれぞれ協力し合いながらおいしい料理が出来ました。

身近な食材で風邪予防 (ぽかぽか教室)

12月15日、下榎集会所で、ぽかぽか教室を開きました。近隣地区の皆さんも参加して和やかな雰囲気の中、今回は、町健康福祉センターの長谷川管理栄養士から、カブ、サツマイモなど身近な食材を使って、風邪を予防するための免疫力アップと粘膜強化に効果のある献立と、『生活リズムと食事のリズムを崩さないこと』が大切だという話を聞きました。初めての参加者もありましたが、作る楽しさと食べる楽しさを堪能し、にぎやかに談笑しながら、和やかなひと時をすごしました。

盛りつけにも工夫して



感想を言い合いながら食事



▼Xニユー▲
鶏ごぼうの混ぜご飯、えびときのこのかき玉汁、かぶのナムル、さつまいものオレンジ煮



おいしい料理ができました

協力して作ります



さすが中学生。おてのもの



2月の行事予定

- ぽかぽか教室《老人憩の家》
2月2日(木) 13:30~15:00
 - セラバンド体操《老人憩の家》
2月8日(水) 10:00~11:30
講師：高橋伸也さん
 - 生け花(草月流)《下榎集会所》
2月25日(土) 13:30~
講師：生田清子さん
- ※学習講座は、誰でも参加できます。
【申込みおよび問合せ】
下榎隣保館(電話72-1191)まで
※学習講座で習ってみたいこと、関心があるものなどがありましたら、ご意見をお寄せください。

『ぽかぽか教室』 のお知らせ

2月2日(木)午後1時30分から「ぽかぽか教室」を開催します。

今回は、『心の健康とうつ病早期発見について』です。うつ病は、6~7人に1人が人生のうちでかかるといわれており、治療することで治る病気です。

この機会に役場健康福祉課職員に気軽に相談してみませんか。どなたでも参加できます。皆さんの参加お待ちしております。

隣保館連絡協議会 現地視察研修会

12月7日に若桜町高野隣保館で、12月15日に伯耆町文化センターで、職員現地視察研修会が開かれました。

各隣保館とも、それぞれ学習会・隣保館講座など、工夫が見られていました。特に地域交流事業に力を入れ、子どもや高齢者が活発に活動している様子を聞き、とても参考になる会でした。

10月19日、町文化センターで人権啓発講演会を開いた講演内容を12月号に引き続きお知らせします。

今回は、和田芳治さん(人間社会学研究所長/元広島県総領町教育長)を講師に招き『笑顔あふれていますか』と志民になろうと題して10月19日、町文化センターで開きました。
※12月号に引き続きお知らせします。

差別しなくてもいい人間になろう

人権教育、同和教育は元気になる、差別しなくてもすむ人間になる、自分の徳になり、私のためになると言うものでなくてはならない。

差別は、苦しいからそれを逃れようとして人を引きずり下ろす行為。笑顔とありがとうがあふれている人は差別しない。そのような人権教育が必要です。

世界的な差別の基準

世界的な差別のものさしは『力があり、能力があり、やる気があるのにチャンスが与えられないことが差別』とされ、そ

のような行為は厳しく避難されます。女性だから、黒人だからとチャンスを与えないことが差別、同和教育もそう。

女のくせにと言われることがある。そんなときにはすかさずピースサインを出して「ピース」と言おう。「女のくせに」はどんな時に使いますか、男が言うことがなくなったときの捨てぜりふ、逆に言えば「言った本人以上」と認められたことだから。「子どものくせに」も「年寄りのくせに」も同じこと。それ以上として認めてもらったことだから。

理想のまち(地域)

まちづくりの主役は私。社会が、行政が：と「くれない族」では命は輝きません。努力して手に入れた金で本当に必要なものを買うことが幸せを築く。努力をしない手で手に入れるは人間性と人間関係を壊し、努力することを忘れて不幸になります。



和田さんは温かい口調で人権問題を訴える

町の名物は「大根と盆栽」と言う人がいる。大きくなれば引っこ抜く、芽が伸びれば摘み取る。人の足を引く張らないで笑顔とありがとうが溢れているまち(地域)づくりには「ナイモノネダリはしない、宝探しもしない、自分を掘り起こし、足を掘り起こし、地元を掘り起こして、あるものを磨いて宝にする」、そのような志を高くかざして「人のため、社会のため」にと喜んで汗する人『志民』になることがまちづくりに必要です。

志民をふやそう

努力は人を自立させ一人歩きをさせること、「まあ、ものさしは人それぞれ」と見逃すことは人権無視につながります。子どもの機嫌を取ることばかりではむごい教育をしていることではないかと思えます。自立させ打てば響く人に育てることは大人が責任を持って教え込むことだと思います。

「私の時代はこれが一番良かったが、君らの生き方に一番良いこととは言えない、自分で考え、君ら流に幸せを作って行け」と知識や経験をしっかりと語り伝える教育が大切ではないでしょうか。

ありがとうバイキンをふやそう

子どもの誕生日には『あなた

が生まれた時に本当に感動した。ありがとう』と言つてあげよう。子どもの問題行動の多くは役立ち感を家庭で味わっていない、自分は居てよい者だろうか、自分のために両親は離婚したのではないか、と自分の存在を否定してしまう。どんなときや場合でも子どもの存在を否定してはいけない。

♪あなたにありがとう 山にありがとう 野の花にありがとう 母さんにありがとう 父さんにありがとう この顔にありがとう この町にありがとう ありがとうの花を咲かそう

♪ ありがとうの心を育てること、役立ち感を味あわせることが幸せなまち(地域)を作り出す。

命のリレー

私の一番の願いは、生まれて死んでいく中で一番幸せなことを、私に与えられた命のリレーをきつちりやつて子どもたちに繋いでいくこと。二番目に、自分に与えられた能力をできるだけ發揮すること。人の役に立ち、ありがとうと言われたい。

やりたいことができない、能力が發揮できない、役立ち感を味わうことができない、そのような生き方はしんどい、立つ瀬が無くなつて来ると下を潜つて生

きようとする。

一番心配なのは、努力に努力を重ねて、ふるさとを捨てさせる教育をやってきたこと。我のような暮らし方や、我に従ったお母さんのような生き方はだめだとの否定がある。ふるさとを否定し、自分を否定して育てられ都会に出て行った。さらさら輝いて見えた近代的な団地の生活、今どのようになっているか知っていますか。

人は必ず挫折があるが、そのとき踏ん張る力、立つ瀬がなかったら…。ふるさとに誇りが持てるのか、両親に誇りが持てなかつたら、人の下を潜つて生きようとする事になってしまう。『錆は鉄から出て鉄を腐らす』と言います。しんどい中で、したくないのに差別発言を繰り返してしまうのが私たちではないのかと思えます。

命を輝かす

人権・同和教育を

『弱者や誰かのために』と人権教育を学ぶのではなく、『笑顔を輝やかし、私の命を輝かすために』同和教育は学ばなければいけないと思えます。

私は節分草が好きです。春を告げる人は大好きです。福島の春は待つていても来ない、支える人によって春は来る。皆が春を告げる人になってほしい。